

1	事業名称	幼稚園・保育園支援事業			
2	新規・継続	継続	5年目		
3	趣旨	当青少年自然の家周辺の自然環境を活かした幼児の自然体験活動プログラムの研究開発を行い、幼児期における自然体験活動の普及をはかる。			
4	期日・期間	回数	実施日	回数	実施日
		1回	9月18日	11回	10月5日
		2回	9月19日	12回	10月11日
		3回	9月20日	13回	10月12日
		4回	9月25日	14回	10月15日
		5回	9月26日	15回	10月17日
		6回	9月27日	16回	10月18日
		7回	9月28日	17回	10月19日
		8回	10月1日	18回	10月29日
		9回	10月2日	19回	10月31日
	10回	10月3日	20回	11月2日	
5	実施場所	国立信州高遠青少年自然の家			
6	募集人数	各回 保育園・幼稚園年長(年中)児クラス			
7	共催・協力・後援	後援：長野県教育委員会 協力：松本短期大学			
8	参加者人数	1回 さくら保育園(17名) 11回 伊那東保育園(29名) 2回 飯田中央保育園(19名) 12回 西春近南保育園(16名) 3回 飯田中央保育園(18名) *2回目と別クラス 13回 二子保育園(30名) 4回 育良保育園(20名) 14回 柏木保育園(20名) 5回 育良保育園(20名) *4回目と別クラス 15回 上の原保育園(59名) 6回 宮川第二保育園(16名) 16回 聖クララ保育園(41名) 7回 木下南保育園(35名) 17回 長岡保育園(15名) 8回 松本短大幼稚園(29名) 18回 入船保育園(55名) 9回 長田保育園(29名) 19回 東春近中央保育園(36名) 10回 聖ヨゼフ保育園諏訪(17名) 20回 明星保育園(31名)			
9	参加者類型	幼稚園・保育園年長児 552名(18園20クラス)			
10	参加者地域	長野県内 552名			
11	参加者分析	・新規申し込み園が5園で、近年より多かった。 ・午前と午後で活動時間を分けて、年中と年長の2学年が参加できるようにする園が増加した。			
12	アンケート満足度	満足	やや満足	やや不満	不満
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
13	アンケートの主な記述	(園児のアンケートは採っていないため、引率指導者アンケートより) ・日頃できない森の中の活動ができ、子どもたちは思いっきり体を動かしていた。 ・「冒険の森」の活動だけでなく、周辺の森の道を散策するだけでも十分な自然体験になった。 ・指導者の説明がわかりやすく、丁寧な対応をしていただいた。			

14	成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は、新規申し込み園が2園であったが、今年度は、飯田市、伊那市、松本市、茅野市、箕輪町の4市町5園の新規申し込みがあった。着実に本事業の趣旨が広く浸透していると考ええる。 ・松本市の新規申し込み園の園長が本事業に賛同し、その後市内の園長会の研修として、当自然の家の見学会を開催していただき、本事業をアピールすることができた。
15	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・支援事業の期間が9月～10月という限られた期間であるため、参加園の数も限られてくる。今後の新規申し込み園の増加をふまえると、指導者を増やしたり、活動場所を増設したりすることを検討しなければならない。 ・上記に関連して、「冒険の森」のロープを張る木の耐久性を考えると、新たな場所を選定しなければならない。
16	担当者メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・指導にあたる担当者がタイニーキャンプも担当しているため、キャンプ翌日に本事業を担当することもあった。体力的な負担を考えると、多くの職員が直接指導ができる体制が必要である。

プログラム展開(各園共通)

	日程・時間	プログラム	備考(講師等)
17	10:00	入所・はじめの会	国立信州高遠青少年自然の家職員
	10:30～12:00	森のくまさん ピョンピョンうさぎ サルの川わたり	国立信州高遠青少年自然の家職員 松本短大研究生
	12:00～13:00	昼食	国立信州高遠青少年自然の家職員
	13:00～14:30	コアラの木のぼり 自由遊び	国立信州高遠青少年自然の家職員 松本短大研究生
	14:30～15:00	終わりの会	国立信州高遠青少年自然の家職員
	15:00	退所	園職員



森のくまさん



ピョンピョンうさぎ



コアラのぶらさがり



サルの川わたり



ラッコのつなひき



ワニの川あそび